

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：株式会社白川まちづくり会社 代表者取締役社長 阪本啓之
補助事業テーマ	ハイブリッド商店街
事業実施期間	令和 2年10月15日 ～ 令和 3年 2月28日
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 販売チャネルの拡大</li> <li>② 店舗と商店街のネットワーク化</li> <li>③ 生活者と商店街のむすびつき強化</li> </ol>
事業の実績(成果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 販売チャネルの拡大 これまで一部の店舗でしかできなかったECサイトが手軽にできることで販売チャネルの拡大ができた。 商圏の拡がりとともに、販売量の拡大が期待できる。それと同時に“オンライン接客”などの機能で、スマートフォンを介して店主とお客様が動画で話をできることから、一層親しみがわいてファン化していくと思われる</li> <li>② 店舗と商店街のネットワーク化 京都府下の商店街はそれぞれが独自のホームページや一部の商店街においてECサイトを運用してきた。しかし、京都の府下の商店街がある程度参加し「商店街」として集積するサイトはないので商店街の魅力を発信でき、来街者の増加も図っていく。</li> <li>③ 生活者は地元の商店街は知っていても、他の商店街のことは知らない。このサイトによって他の商店街やそこにある店舗を知っていただき、気に入って商品を購入するだけでなく、商店街へも足を運んでほしいと思う。商店街情報では、イベント等の情報を発信しているので、商店街が生活者にとってより身近に感じることができると思う。</li> </ol>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府下の商店街の参加をうながし、2022年3月末までに20～25商店街約200店舗を目指す</li> <li>・コミュニティECとして、商店街や店主のキャラクターを観て商店街に親しみを持ってほしい。</li> <li>・これまで、“商店街”を集積したECサイトはなかった。商店街というカテゴリーが生まれ、実店舗で商売しているお店のお勧め商品ということで特徴あるサイトになっていくと思っている。</li> </ul>